

HGU Library News No.4

こんにちは、ライブラリーニュース第4弾です。

今回は、「携帯小説」を特集します。「携帯小説」とは、携帯サイトに書かれる小説全般のことを指します。書き手と読み手の距離が近いことが特徴で、共感できるなどの理由から、10代から20代の女性を中心に広い支持を集めています。そこで、今回は、携帯小説について現役の女子高生に尋ねてみました。

取材に協力してくれた県内女子高のあるクラスでは、20人中15人の女子が携帯小説を読んでいました。「なぜ携帯小説を読むのか？」との問いには、「友達が読んでいるから」や、「恋愛系の作品が多いから」という回答が多く上げられました。携帯小説には、友情や恋愛が描かれているものが多く、同世代の話として感情移入しやすいのだと思われます。また、「読みやすい」との回答もあり、それは上記の理由以外にも、「携帯だから」ということも関係しているようです。

さらに、「携帯小説だと、お金が掛からないから」という回答もありました。携帯で読む場合、パケ放題のサービスに入っていれば幾らでも読む事ができます。そして、書籍化された携帯小説は千円ほどで手に入ります。やはり、高校生は遊びたい盛りで、金銭的にも考えているようです。最近では、学校の図書室用に購入されることもあるそうです。以下に紹介するのは、映画化やドラマ化で有名になった『恋空』です。

美嘉著『恋空 <上・下>』スターツ出版 2006年

主人公・美嘉(田原美嘉)は、身長が低いこと以外は普通の子女子高生であった。ある日、ノゾムという友人にPHSの番号を知られたことがきっかけで、偶然ヒロ(桜井弘樹)と知り合い、付き合うようになる。ヒロは、はじめは軽い気持ちだったが、次第に本気になっていく。美香とヒロは、友達のアヤとノゾムのカップルとダブルデートをしたり、一緒に授業をサボったりして高校生活を楽しんでいた。

ところが、ある日、ヒロは美嘉に突然の別れを告げる。二人はそれぞれ別の人と付き合うことになるが、後に美嘉は、ヒロが末期のがんであり、「美嘉には幸せになってほしい」という願いから、別れを選んだのだと知る。結果、大好きな今の彼と別れ、ヒロの元へと走る。ヒロは、抗がん剤治療の甲斐もあり、髪の毛が抜ける程度の副作用で奇跡的に3年間も生きながらえるが、別れの時が来るのを食い止めることはできなかった。ヒロの死後、美嘉は奇跡的に彼の子を授かっている事を知り、ヒロの分まで育てることを決心した。



ライブラリーメイトのおすすめ本

	<p>『食い逃げされてもバイトは雇うな—禁じられた数字<上>—』 山田真哉著 光文社新書 2007年</p> <p>分かりやすいイラストと数字の力でどんどん手が勝手にページをめくってしまうような一冊なのでとても読みやすいです。会計を身近なものとして考えられ、この本を読んだ「効果は一生」です。「使うべき数字」と「禁じられた数字」。数字を上手く使いこなし且つ数字に騙されない—そんなことが面白く理解できる一冊です。（翡翠）</p>
	<p>『ふりむいてはいけない』 平山夢明著 角川春樹事務所 2005年</p> <p>今回はお勧めのホラー小説を紹介します。30以上の短い小説がこの一冊にまとめられていて、様々な悪霊や心靈現象がリアルに書かれています。夏でも、周りの暑さを忘れてしまうくらい夢中になれること間違いありません。読み終わって振り返ると、あなたの後ろに...何かがいるかもしれません。（蓮花）</p>
	<p>『Happy Birthday』 青木和雄／吉富多美著 金の星社 2005年</p> <p>今日はあすかの11回目の誕生日。誕生日はあすかがお母さんの視線の中に入れる唯一の日だった。でも...母は仕事から帰ってこない。結局帰ってきたのは夜中。寝ていたあすかは笑い声で目を覚ましドアを少し開けてみた。すると話し声が聞こえてきた。「あすかはなにをやらせてもダメなのよね。ああ、あすかなんて本当に生まなきゃよかったなあ」その言葉を聞いてあすかはショックで声が出なくなってしまう...というお話です。とても感動するので是非読んでみてください。（みかん）</p>
	<p>『余命1ヶ月の花嫁』 TBS「イブニング5」著 マガジンハウス 2007年</p> <p>この本は、乳がん侵された20代の女性が病気と闘い、病気が進行していく中、友達や親に祝福されながら恋人と結婚式を挙げ、最後の瞬間まで病気と闘い続けた記録を書いた本です。（あやこ）</p>
	<p>『A型自分の説明書』 Jamais Jamais 著 文芸社 2008年</p> <p>石橋を叩きすぎて割る、苦労性、感情むき出しは恥ずかしくなる...などなど、いつも周囲への気遣いを忘れない「いい人」であり、世の中のルールブック的役割を果たすA型人間だが、なぜか報われることが少なく、損をしてしまいがち。そんなA型人間を鋭く観察し、ユーモラスに表現したA型人間完全マニュアルが誕生した。大好評B型自分の説明書に続く第二弾。（ルマンド）</p>
	<p>『そんなじゃねえよ』 和泉かねよし著 小学館 全9巻 2003年</p> <p>ライブラリーニュースで、あえてのマンガです！！少女マンガです！！超AAA級のかっこいい双子の兄たちと妹の恋愛模様を描いたマンガです。と言っても、屋ドラチックではなく、人間関係、人としての生き方、主人公静の考え方、すべてが共感でき、参考になります。内容的にも、素晴らしいのに、そこになおかつ笑いの要素がモリモリで、初めて、少女マンガで声を出して笑いました。とにかくとにかく、おススメです！！（ここ）</p>



『神隠し三人娘』 赤川次郎 著 集英社文庫 2002年

大手観光バス会社をリストラされた町田藍は、小会社のすすめバスに就職。その会社では幽霊ツアーというものがあり、靈感の強い藍はツアーで起こる問題や事件を次々に解決。バスガイドの町田藍が繰り広げるユーモア・ミステリーな話。ミステリーが好きな人にも、そうじゃない人にもオススメの一冊。(じゃがりこ)



『ぐるんぱのようちえん』 西内ミナミ著 こどものとも傑作集 1966年

大きなぞうのぐるんぱは、ずっとひとりぼっちで暮らしていたので、とっても汚くて臭いもします。仲間のぞうは、いつまでもブラブラめそめしているぐるんぱを仕事に出すことにします。ビスケットやさんやくつやさんなど、色々な所へ仕事に行きますが、ぐるんぱの作るものは全て大きすぎて使えない物ばかりなので、すぐに追いだされてしまいます。ぐるんぱは、しょんぼり、がっかりします。しかし最後に、子どもたちと出会い、ぐるんぱの幼稚園をひらくこととなります。そこでは、今まで役に立たなかったものが、大活躍します。楽しそうなぐるんぱのようちえんに行ってみたくなる絵本です。(あーちゃん)

《子どもコミュニケーション学科 高山静子先生からの寄稿》



私のすすめる本

発達協会編「泣いていても変わらないわたしの子育て日記～障害を持つ子の親29人の記録」大揚社

「泣いていても変わらないわたしの子育て日記～障害を持つ子の親29人の記録」は、29人の障害の子どもを持つ保護者の手記と、その療育担当者のコメントで成り立っています。

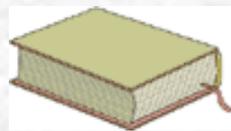
この本は「発達協会」という発達障害の療育を行っている団体が編纂している本です。発達障害は、保護者が何かおかしいと気づきはじめるのが1歳から2歳、診断を受けるのが3歳以降であることも多く、「何かの間違いではないか」、「直るのではないか」と障害を受け入れるまでに時間がかかります。また、コミュニケーションに障害を持つため、しつけを行うことがとても難しく、周囲の人から「親の愛情不足」「しつけの悪い子」と誤解されることもあります。手記では子どもが生まれてから現在までの自分と家族の心境の変化と、病院や幼稚園・保育園での印象的な出来事などが細やかに語られます。

誰にも、その人のかけがえのない人生があります。その人の人生は、その人だけが経験している固有のもので、1人ひとりに、その人だけの家族があり、経験があり、その人の人生があります。私達は、自分では決して生きることができない他者の人生を、本を読むという行為によって疑似体験することができます。

特に、他者を援助するという仕事を選ぶとする方には、さまざまな本を読んで他者の人生を感じてほしいと思います。私たちは、自分の経験や価値観で相手の気持ちを想像したり、分析したり、簡単にわかったような気持ちになりがちです。しかし、その人の本当の良さも、苦しみも、自分は100分の一もわかっていない、何もその人の人生を知らないのだ、という感覚が大切だと思います。

本のなかで苦しみや喜びをともに感じることによって、他者の人生を大切に思い、他者の人生にそっとふれることができるようになりたいと思います。だから私は今日も本を読みます。そして、皆さんにも本を読むことを勧めたいと思います。

私の一冊



鈴木三重吉が児童雑誌『赤い鳥』(大正八年七月号)に発表した「女神の死」という物語の中に、次のような一節がある。黄泉(よみ)の国に亡妻伊奘冉(命(いざなみのみこと)を訪(とぶら)った伊奘諾命(いざなぎのみこと)が、死者の御殿の奥深く彼女の死体を覗き見る、日本神話の一場面である。

命(みこと)は永(なが)い間(あひだ)戸口(とぐち)にちつと待(ま)つて入(い)らつしやいました。併(し)かし、女神(めがみ)は、それなりいつまでたつても出(で)て入(い)らつしやらないので、命(みこと)は、しまひには、もう待(ま)ちどほしくて堪(たま)らないので、とうとう、左(ひだり)の鬢(びん)の櫛(くし)をおぬきになつて、その片(かた)はしの大歯(おほは)を一本(ぼん)缺(か)ぎ取(と)つて、それへ火(ひ)をともして、僅(わづ)かに闇(やみ)の中(なか)をてらしながら、足(あし)さぐりに御殿(ごてん)の中(なか)深(ふか)く這入(はい)つてお出(い)でになりました。

さうすると、御殿(ごてん)の一ぱん奥(おく)に、女神(めがみ)は寝(ね)て入(い)らつしやいました。そのお姿(すがた)を灯(あかり)で御覧(ごらん)になりますと、お体中(からだぢゆう)は、もうすつかりべとべとに腐(くさ)りくずれてゐて、嗅(くさ)い嗅(くさ)いいやな臭(にお)ひがぷんぷんと鼻(はな)へ来(き)ました。そして、そのべとべとに腐(くさ)つた体中(からだぢゆう)には蛆(うじ)がうようよとたかつてをりました。それから、頭(あたま)と、胸(むね)と、お腹(なか)と、両股(りやうも)と両手(りやうて)と、両足(りやうあし)のところには、その穢(けが)れから生(うま)れた、雷神(らいじん)が一人ひと(り)づつ、すべて八人(にん)が、怖(おそろ)しい顔(かほ)をしてうづくまつてをりました。

ちなみに上記の文章のもととなった『古事記』原文の、腐乱死体窺視(きし)のくだりは、次のように語られている。

湯津津間櫛(ゆつつまぐし)の男柱(をばしら)一箇(ひとつ)取(と)り闕(か)きて、一(ひとつ)つ火(び)燭(とも)して入り見給(みたま)ひし時(とき)、宇士多加礼許呂呂岐豆(うじたかれころろきて)、

読む者を圧倒するのは「小野小町九相図」(鎌倉時代成る。美しい小野小町が骸となり風化するさまを描く)などに纏綿(てんめん)する仏教的無常観とは無縁の、ひとえに原始的・直線的な死屍の叙述である。

私が病床でこの書物に接したのは、小学校に上がる少し前、満六歳の時であった。冬夜の褥(しとね)にひとり臥せりながらそれを読み下した時のおのきは、今でも忘れることが出来ない。屋根の積雪が闇をとよし滑り落ちる北国の家の奥座敷のたたずまいと、冷え冷えと瀾漫(びまん)する湿気と、この黄泉の国のありさまとはいつもひとつになり、重く脳裏によみがえってくる。

後年私が日本神話研究を志したのは、やはりこの時の衝撃が契機となつてのことであろう。幼時における一冊の本との邂逅が、人の感性や思想に少なからぬ影響を与え、時にその後の人生をも方向づける事実があることを、今にしてしみじみと思うのである。

ライブラリーメイトの新メンバー紹介

+ 従来からのメンバー

<p>蓮花</p> <p>スポーツと読書が大好きです。好きな本はシャーロック・ホームズとかの推理小説です。</p>	<p>みかん</p> <p>中学の頃はハリーポッターばかり読んでました。今は最近出た最新巻を読んでみたいです。</p>
<p>あやこ</p> <p>あまり本は詳しくないですが、頑張ります。</p>	<p>あーちゃん</p> <p>本は“ミック”が大好きです。ライブラリーメイト頑張ります。</p>
<p>ここ</p> <p>絵本とマンガが大好き♪</p>	<p>じゃがりこ</p> <p>小説が好き。特にミステリーが好き!!</p>
<p>フーちゃん</p> <p>最近読んだ本は『手紙屋』です。友達から色んなジャンルの本を借りることが多いので、頑張って読んでいます。</p>	

- ・みじんこ
- ・翡翠
- ・レーズン
- ・ネムリネズミ
- ・ルマンド
- ・アリア